

2010年(平成22年)11月30日 火曜日

元気のヒント

◁31▷



友竹 偉則

徳島大学病院歯科(そしやく科)

インプラント治療は、歯が失われた部分の顎の骨にチタン製の人工歯根(インプラント体)を埋め、歯冠を連結して、咬み合わせや歯並びを回復させる治療方法です(図参照)。

従来は、固定性のブリッジや、取り外しができる入れ歯が主流でしたが、インプラント治療によって隣の歯を削らずに、違和感もほとんどなく、しっかりと咬むことができるようになり、最近では満足度の高い治療方法として知られています。

インプラント治療を安全・安心に受けるためには、治療

インプラント治療

の内容を十分に理解することが重要です。

インプラント体の材料であるチタンは、骨と結合するという特性を持っています。歯科以外の領域でも、骨折の固定に使用されるプレートやボルト、人工関節などの素材として広く使用されていて、体内に取り入れてもアレルギーを起さない、生体親和性の

違和感なく高い満足度

高い安全な材料です。

インプラント

体の埋め込みに

は、顎の骨に相応の量が必要

なため、まずパノラマエック

ス線検査で適否を診断しま

す。CT検査はより詳細に顎

の骨の形態が把握でき、適切

な治療設計や予期せぬ組織

損傷の回避に極めて有効で

す。

定期的メンテナンス大切

また、インプラント体の埋め込みは手術になるので、健康状態についても診察が必要です。頻度の高い生活習慣病で、痛みを感じない状態で行ないます。体内に人工物を埋め込む位置なので、清潔な環境での治療が重要です。通常の診療用器具もそうですが、手

術は、歯科医院で通常使

用している局所麻酔剤をし

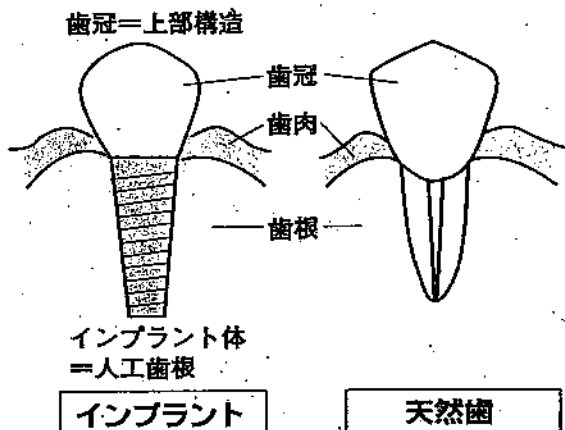
て、痛みを感じない状態で行

ないます。体内に人工物を埋め

込む位置なので、清潔な環境

での治療が重要です。通常の

診療用器具もそうですが、手



術器具は高圧蒸気滅菌処理を施し、インプラント体は未開封、滅菌したものを患者ごとに使用します。

今年、他県の歯科医院がインプラントを使い回していたというニュースが話題になりましたが、もちろん論外です。

インプラント体と骨とが結合するための2〜6カ月間の治療期間後に、歯冠部分を装着します。咬んだ感覚が天然歯と異なるので、まずはプラスチック製の仮歯を装着して慣らした上で、耐久性のあるポーセレン(陶材)製や金属製の歯を装着します。そして治療が終わっても、定期的なメンテナンスが大切です。

インプラント治療は、手術という身体的負担と、保険適

用外の自由

診療という

費用負担が

大きなもの

になるので、術前での検査や

治療計画について、担当医と

よく相談して理解すること、

納得することが安全・安心に

つながります。セカンドオピ

ニオンを仰ぐことも定着して

きましたので、必要だと思っ

と連携してください。